

釧根地域将来像検討委員会 P I 論点整理

意見区分

箇条書意見の「・」は市町村、「」は委員、「」は一般からの意見を指す。

安心・安全で質の高い食産業の構築について

担い手不足に対応した農業・水産業の効率的な産業構造の構築

- ・担い手不足より、現在、高卒者や離職者が地元で働きたくても働けない現況から、安心して働ける場所が強く求められる。(厚岸町)
- ・就業者の高齢化や後継者対策が問題。(浜中町)
- ・後継者問題と先行き感が離農の主因であり、新たな経営継承システムの確立が課題。(標茶町)
- ・酪農後継者組織自主的活動への支援。(鶴居村)
- ・農協、北海道農業担い手育成センターとの連携強化。(鶴居村)
- ・地域活性化事業などを対象に、財政的な支援の実施。(鶴居村)



関係機関との連携強化により担い手を育成すべき

自然環境と調和した持続可能な産業構造の構築

- ・食料供給と産業活動を維持発展させながら広大な国土管理をどう行って行くかが課題。(釧路市)
- ・自然環境、産業、生態系などと協調した川づくり。(標津町)
- ・多面的機能を有する豊かな森づくり。(標津町)
- ・自然環境重視型の生産基盤整備。(浜中町)



自然環境の保全、管理と活用を両立させる必要

豊かな自然環境を享受した安全・安心な「食」の生産

- ・安全・安心・良質な食料の供給が重要。(釧路市ほか)
- ・食の安全性が重要視されている昨今では今まで以上の取組が望まれ、基礎的な環境整備及び保全を図ることにより、安心・安全で質の高い食産業の基盤が構築さ

れる。(弟子屈町)

- ・より多くの「食資源」や「観光資源」の発掘と町民ガイド等によるサービス提供形態等の確立が必要と考えるとともに釧根地域が一体となった情報発信が必要。(別海町)

- ・漁港「環境衛生管理施設」(屋根付き埠頭、清浄海水供給、排水処理、港内の舗装化等)の整備促進。(標津町)

- ・これまで以上の「安全・安心・本物の食料供給基地」の推進。(標津町)

安全・安心で質の高い「食」について安全・安心に加えて健康の視点を。(辻中委員)

環境と地域活性化は密接な関係にあるため環境保全の施策が求められる。(一般)

食糧基地としての釧根の位置付け・役割を明確に示すべき。(一般)

釧根地域は「獲る・狩る」だけではもう後が無い。「守る・生かす・作る」の産業を若手と一緒に作り上げる。(一般)



安全・安心に加え、「本物」や「健康」といった視点にも着目すべき
安全・安心な「食」の生産を持続可能なものとするため、環境の保全や
資源を「守る・活かす」ことにも配慮すべき

食の高付加価値化・ブランド化の推進

- ・地産地消のためには産地において「地域ブランド」が認知・親しまれることが大切。(釧路町)

- ・大消費地のニーズに合った食品づくりや付加価値を高める事が必要。(厚岸町)

- ・「根釧」ブランドではイメージが広すぎてインパクトが弱い。小地域の「冠」が必要。(標茶町)

- ・フランスのワイナリーのような小地域で生産された牛乳やチーズを食べることができる構造と、持続のための消費拡大策の確立。(標茶町)

- ・良質な牛乳を活かした特産品の開発が期待される。(鶴居村)

- ・「地域HACCP」及び「循環酪農」は比較的安定した経営を行っているので、今後は「物づくり産業」の振興が課題。(標津町)

水産業などの高付加価値化が必要。(一般)

地域性をもっと打ち出さないと、地域として生き残れない時代。(一般)

地方には地方の良さがある。都市機能も大切だが、自然など地方が持っている良

さを都市にPRしていくことが必要。(一般)

釧根と十勝を比べると、ブランド力では十勝の方が上。違いはほとんどないはず。東京などへの情報発信力が弱いのではないか。(一般)



各種ニーズへの対応など、消費拡大に向けた取り組みが必要
ブランド化に向けては、他地域との差別化や情報発信力などが問われる

輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実

- ・高規格幹線道路の早期整備による効率的な物資輸送が必要。(釧路市ほか)
- ・中標津空港と大都市圏との路線強化。(標津町)

高速道や港湾充実が図れれば、大都市圏から遠いというデメリットも、物流スピードで大差が無くなる。(一般)



骨格道路の整備を進める必要

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興について
環境との調和や産業活動と連携した観光メニューの提供

- ・自然環境を活かした観光振興が重要。(釧路市)
- ・酪農と漁業の地場産業を活かした「自然環境、体験、味覚」による観光振興の推進。(浜中町)
- ・自然環境を農業・漁業等の地場産業と有機的に結びつける取組が重要。(釧路町)
- ・観光産業で持続的発展を目指すためには自然環境の保全が重要であり、それにより環境との共生を図る。(弟子屈町)
- ・摩周湖でも木々の立ち枯れやゴミの散乱が目立つなど環境の悪化が懸念される。(弟子屈町)
- ・食産業と連携した体験型観光の振興。(標津町)



自然環境や特産品などの地域特性を活かした観光振興を図るべき
地域にある資源や産業の融合を図るべき

安全・安心な食をはじめとした他産業との連携

- ・地域特産品を利用した観光振興が必要。(運輸支局)

- ・「そこに行かなければ食べられない」希少性の観光も成り立つのでは。(標茶町)
- ・イカやマグロではなく牛乳加工品やサンマの刺身を提供出来る地元産業の融和が必要。(標茶町)
- ・地域に埋もれている「資源」を発掘し、食や観光産業に結びつけ、地域を活性化させていくことが必要。(鶴居村)



地域の食材を「地元」で提供できるよう産業の融和を図るべき

国際化や個人観光に対応したサービス・情報の提供

- ・地域特産品を利用した海外客、国内リピーターの誘致が必要。(運輸支局)
- ・現存の食や観光産業についても、リピーターを増加させるため、事業者の安全管理体制の整備やサービス内容の向上など、常に利用者の立場にたったより質の高いサービスの提供が求められる。(鶴居村)



食などの活用に加え、「癒し」や「安全」などの側面にも配慮すべき
リピーターの誘致に注力すべき

広域的連携による観光産業の振興

- ・知名度の高い観光地の連携した取り組みが重要。(釧路市)
- ・多くの公園を抱える地域だが、それらを結ぶ交通手段(システム)が希薄。(標茶町)



観光地間の連携を図るべき

住みたくなる地域・生活環境の充実について

雇用機会の創出

- ・農業・漁業を職業として選択できる環境づくりが必要。(釧路町)
- ・産業振興による雇用機会の創出などの取組み推進が求められる。(釧路町)
- ・安定した雇用の場づくりの視点も必要(厚岸町)

人口減の要因は、企業の撤退も非常に大きい(札幌や道東圏では帯広に集約等)。企業誘致や流失に歯止めをかける等を図る点はおろそかになっていないか(釧白工業団地も空きが目立っている。固定資産税などの優遇も合わせて大規模な工場

や空き店舗の活用で出先を出してもらおう等)。(一般)



産業振興などによる雇用機会の創出を図るべき
安定した雇用の場確保に向けた企業誘致などを行うべき

利便性を確保するためのアクセス機能の向上

- ・高齢者の移動手段確保が持続的発展につながる。(運輸支局)
- ・高規格幹線道路の早期整備による効率的な物資輸送が必要。(釧路市)(再掲)
- ・農村・漁村は地域の根幹を成しており、生活基盤整備は必要。(釧路町)
- ・第2次医療実施病院への到達時間の短縮が過疎地定住の安心感につながる。(標茶町)
- ・物流を含めた交通アクセスの改善を図るため高速道路・高規格道路の整備が必要。(弟子屈町ほか)(再掲)

丸井今井も撤退し、市街地がさびしい。若者は札幌を向いている。(一般)



高齢者の移動手段を確保、充実すべき
生活基盤拡充のための交通アクセス改善を図るべき

豊かな自然を享受できる地域づくり

- ・自然環境をワイズユースしながら永続的に保全することが課題。(釧路市)
- ・循環型社会の構築が必要。(浜中町)
- ・実際に住んでいる人が「住み続けたい」と感じなければ、移住もあり得ない。癒しとしての自然環境の保全と、日常生活上の利便性の確保。(標茶町)
- ・治水上問題のない市街地の河川での豊かな自然を認識出来る、昔風河川風景にする。(標茶町)
- ・釧根地域の世界に誇れる豊かな自然は、地域の大切な財産であり、産業に活用するだけではなく、地域全体で保全していくことも重要。(鶴居村)



環境保全と利便性を両立させる必要

地震・津波や豪雨・豪雪の災害に強い地域づくり

- ・耐震岸壁、津波スクリーン等の防災対策に係る施設の整備が必要。(釧路市)
- ・雌阿寒岳の詳細観測体制が必要。(釧路市)

- ・火山や地震に対する防災対策が必要。(弟子屈町)
- ・災害時の地域連携の強化が必要。(鶴居村)
- ・自然災害発令時等における情報ネットワークの確立や自主防災組織の育成、更には災害時におけるライフラインの確立が重要。(別海町)
- ・除排雪システムが解決された豊かな冬の暮らし。(標津町)



防災対策に加え、災害時の地域連携やライフラインの確保が必要

北方領土との交流など国際交流の促進

- ・「北方領土隣接地域の振興」(根室市)
- ・「北方領土問題の解決に向けた取り組み再構築の円滑な推進」(根室市)



第5期計画や今後の交流展開などに根ざした返還活動を推進すべき
経済活動を見据えた多様な取り組みを展開すべき

東アジアなどとの関係の強化について

海外などの需要に応えられる生産・輸送システムの構築

- ・釧路港の外貿コンテナ定期航路の維持・拡大は不可欠。(釧路市)
- ・釧路空港のチャーター便による国際観光振興と併せて「東アジアなどとの関係の強化」を標榜する事が重要であり、C I Q体制の充実と空港機能の利便性確保が不可欠。(釧路市)



釧路空港などの機能充実を図るべき

将来像を支える仕組みづくり

他地域との役割分担と広域連携の推進

- ・医療・福祉などの住民サービスは広域的な取り組みも必要。(釧路町)
- ・地域特性を活かした差別化と、生活環境の整備など、ものによっては広域連携も必要。(厚岸町)
- ・地球温暖化対策としてCO₂吸収源が注目されているが、これが財源に結びついていない。一定程度の開発が終了した都市部からの財源移入が必要。(標茶町)

- ・医療・福祉対策の充実が必要。(弟子屈町)
- ・各地域の役割分担や広域連携等を効果的、効率的に行い、様々な機能を補完し合うような地域構造の構築が必要である。(鶴居村)
- ・釧根地域の各市町村が役割を明確にし、連携を図り具体的な推進が必要と考える。(別海町)
- ・釧根地域の各市町村が有しているノウハウや施設等を有効に利用し、その役割を担うことが必要と考える。(別海町)
- ・食料基地、森林によるCO₂削減、レクリエーションの場としてのフィールド提供。(標津町)
- ・国内移住者の受け皿。(標津町)



生活環境の整備などは、各市町村が有する機能、役割を明確にした上で、積極的に連携を図ることも必要

大学などの機能の活用と地域を支える人材の育成
中心街に大学等を持ってくる。(一般)

釧路駅前的大幅な改革が必要。(一般)

街の活性化には若者の購買意欲をそそり、新興商店の新規参入などをしやすい環境作り・促すのが大事。(一般)

旭川市で「オタク文化」を産業に加えて地域の活性化を狙う動きがあるが、釧路もどうか。(一般)

新しい血の導入が新しい釧路市を創るのに必要。(一般)

酪農や漁業も重要だが、新しい産業を造りだしていかないことには、その他の地域と何らかわらなくなる。(一般)



人材育成に加え、外部人材の導入、活用やそのための新産業育成なども必要

域内循環型経済の促進

- ・地産地消のためには産地において「地域ブランド」が認知・親しまれることが大切。(釧路町)(再掲)



「地域ブランド」の地元における支持強化を図るべき

情報システムの確保によるユビキタスの実現

- ・情報化社会に対応するためブロードバンド通信網の整備が必要。(弟子屈町)

IT化による中央と地方都市の情報格差の解消による、中央と同様なビジネスプランの展開が必要。(一般)



情報化における地域格差解消のため、ブロードバンドなどIT化を推進すべき

地域構造を念頭に置いた交通基盤整備

- ・中心市街地の空洞化対策としての活性化策が重要であり、それと関連した駅の鉄道高架の是非を市民を含めて議論予定。(釧路市)
- ・生活環境の向上・生産体制の整備には、交通網や住環境のインフラ整備は必要(釧路町)
- ・国の補助事業採択基準は人口密集地が対象となるようになっており、地方では別の基準も必要。(厚岸町)
- ・主要国道の高規格化等による時間短縮。(標茶町)
- ・安全上支障のない区間での制限速度緩和。(標茶町)
- ・景観アップのため、道路関係設備の木質系への変更。(標茶町)
- ・小景観地の駐車帯設置。(標茶町)
- ・自然と調和した案内板の設置。(標茶町)
- ・安全、便利、衛生的で快適な生活が送れる生活環境の整備が求められる。(鶴居村)
- ・都市と格差の無い生活インフラの整備(当町は生活排水処理施設)。(標津町)

地域を支える基盤づくり、道東3空港を拠点としたアクセス。(辻中委員)



中心市街地の活性化を図るべき
自然環境や景観などに配慮した交通基盤整備を行うべき

その他

最終のまとめでは各地域（市町村）が重点とすべき項目（メニュー）の組み合わせによるモデルプランを提案されるとより分かりやすい。（出村委員）

- ・ 具体的対応策を例示しなければイメージが解らない。（厚岸町）



各地域におけるモデルプランを提示する必要